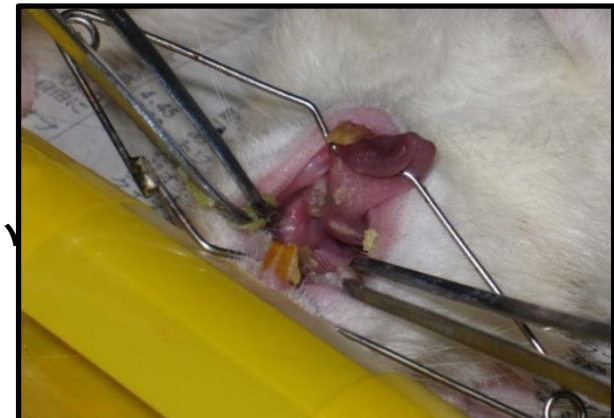


研究テーマ 口腔粘膜障害の予防・治癒に効果的な抗酸化物質の開発
所属氏名等 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 予防歯学分野
教授 伊藤博夫, 准教授 玉木直文

研究シリーズ概要

口内炎による口腔粘膜障害は、患者に疼痛をもたらし、食物の摂取を妨げる一因となっている。さらに、患者のコミュニケーション機能の低下や睡眠障害等を引き起こす原因ともなり、Quality of Life (QOL) の低下に多大な影響を及ぼす。その発生機序としては、**活性酸素種**による酸化ストレス状態の悪化によるDNA損傷、および転写因子の活性化やサイトカイン等の過剰産生によるアポトーシス誘導によって引き起こされることが知られている。しかし、口内炎の予防法も発症後の治療法も、未だ確立されたものは存在しない。

当研究では、**抗酸化物質摂取**が活性酸素種を抑えることで、粘膜障害に対していかに効果を及ぼすかについて検討している。そのため、効果的な抗酸化物質の種類や濃度についての検討を行っている。様々な疾病に関与することが近年において明しつつある酸化ストレスに着目し、口腔粘膜障害の治癒過程を解明することは本研究の独創的な点である。



ラットの口腔粘膜に抗酸化物質を塗布しているところ。

(想定される)応用範囲／今後の展望

現在、口内炎が発症した場合の治療法は確立しておらず、治癒促進と疼痛管理を目的とした対症療法が行われているのみである。現在確立していない口内炎の予防や治療に対する抗酸化物質の摂取の臨床的治療への適用が期待される。